

御礼

昨日は御多忙な中、日唄修文150周年記念シリーズ最終公演にお越しくさ
いまして、誠に有難うございました。皆さまのお蔭でこの延期公演開催の日を無
地に終えることができました。

“新しいかたち”での演奏会、皆さまと一緒に音の世界を旅する時間は、何よ
り音楽が授けられた贈りものであり、客席で温かく見守って下さる皆さまの顔
を見ながら、一音楽家としての声と心の在り方、在る場所は、沈黙の時を越えて
いつも近くにあったのだと、実に多くのことを知ることになりました。
この日の演奏を聴いて頂いたことは、掛け替えのない宝物、心より御礼申し上
げます。

延期となって半年は、凍りつくような日々でしたが、人として自分ができることを
深く突き付けられるなか、皆さまの存在を忘れることはありませんでした。
まだしばらくは様々な初めての経験があり、聴き慣れた歌もきっと新鮮な輝きを
放ってゆくことになるでしょう。そんな少し前向きな春を待つ気持ちが、いま静か
な希望の灯をあたためております。
どうか皆様にとって音楽が遠いものにならないように。
安心して身をゆだねられる、いつも心を解してくれるものであります様にと願っ
ております。
この演奏会を見守ってくださいます、心より御礼を申し上げます。
みなさまがお元気でありますように。

令和2年10月5日 感謝と共に

岩見真佐子記

～ ご報告 ～

本日18日付け、この公演に関わる感染症の報告はございませんでした。
無事の開催、ご協力をありがとうございました。